

# 自己評価書 (令和元年度)



あいさつ



そうじ



くつをそろえる



しせい

令和2年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

## I 学校の現況及び目的

### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校
- (2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1
- (3) 学級等の構成  
小学部 3学級(複式)  
中学部 3学級  
高等部 3学級
- (4) 児童生徒数及び教員数(令和元年5月1日)  
小学部18人, 中学部18人, 高等部23人  
児童生徒数59人  
教員数30人(正規教員数)

### 2 目的

#### (1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には国立教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。

- ① 鳴門教育大学の附属学校として、特別支援教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育課題を踏まえ、徳島県の教育の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命
- ④ 学校研究の成果を活用し、地域におけるセ

ンターの機能を実践的に発揮する使命

#### (2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

#### <学校教育目標>

- ① 明るい性格と豊かな人間性を育てる。
- ② 日常生活に必要な習慣や態度を養う。
- ③ 生活を高めるため、知識・技能・態度を育てる。
- ④ 強靱なからだと意志を養う。
- ⑤ 集団生活への適応能力を育てる。

#### <小学部>

- ① 豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ② 日常の基本的な生活習慣を身につける。
- ③ 興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④ 人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を養う。

#### <中学部>

- ① こころとからだの調和のとれた人間力を育てる。
- ② 自他共に大切にできる態度を養う。
- ③ 生活に生かすことのできる知識や技能の向上を図る。
- ④ 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

#### <高等部>

- ① 心理的な安定を図るとともに、働くための健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ② 主体的に働く意欲や態度、集中力を養う。
- ③ 将来の社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④ 人と関わる中で社会性を身につけ、自ら生活を楽しむことができる力を養う。

### (3) めざす子ども像

本校では、学校及び各学部の教育目標に基づき、それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

#### <学校全体>

- 明るく、仲よくできる子ども
- じょうぶで、元気な子ども
- よく働く子ども
- 力いっぱいがんばる子ども

#### <小学部 めざす児童像>

- 心と身体の健康向上に取り組むことができる児童
- 身の回りのことが、必要な支援を得てできる児童
- 学習活動に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる児童
- 人のかかわりを大切に、集団活動に進んで参加することができる児童

#### <中学部 めざす生徒像>

- 健康な身体と健全な心を持つ生徒
- 他者とかかわることを楽しめる生徒
- 学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
- 自らの興味や関心、楽しみを広げ、様々な生活場面に参加できる生徒

#### <高等部 めざす生徒像>

- 身体と心の健康に気をつけて、人や自然を愛することができる生徒
- 進んで働こうとする意欲やチャレンジ精神をもつことができる生徒
- 自分でできることは自分でして、できないところは支援を求めることができる生徒
- マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

### 令和元年度の重点目標

- ①学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、及び「個別の指導計画」の改善と作成を行い、児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導・支援を充実する。
- ②保護者や関係機関との連携を推進するとともに、学校HPや文書等を活用した情報発信を充実させることを通して、開かれた学校作りを行う。
- ③地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を発揮し、教育相談や教員研修の機会や内容を充実させ、地域における特別支援教育の貢献度を高める。
- ④児童生徒の支援方法の見直しや改善、危機管理マニュアルの見直しや教室等における施設・設備の保守・点検を推進し、学校危機管理及び安全・安心な教育環境を整備する。

## 令和元年度学校重点目標及び各学部各校務課の重点課題

鳴門教育大学附属特別支援学校

①学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、及び「個別の指導計画」の改善と作成を行い、児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導・支援を充実する。

### <小学部>

- 1 各学級の年間指導計画について、中間的な評価を行い、指導計画の見直しや修正を行う。
- 2 年間指導計画と併せて個別の指導計画の見直しを行い、進捗状況や児童の優先課題についての見直しを行う。

### <中学部>

- 1 多様化した障がい特性や程度、また生徒の実態と生活年齢に応じて、保護者との連携の基に個の自立活動とクラス、学部等の集団における基礎的な環境整備と合理的配慮を充実させる。

### <高等部>

- 1 高等部の学習指導要領改訂を踏まえ、学校研究と関連性を持たせ関係機関との連携を図りながら、社会的・職業的自立を促す本校高等部の実情に即した授業づくりを行う。
- 2 生徒一人ひとりの障がい特性や発達段階を踏まえ、「社会参加と自立」に向けた高等部段階における妥当性の高い指導・支援の検討と充実を図る。

### <教務課>

- 1 「個別の指導計画」の作成が円滑に進むような運営をする。
- 2 新学習指導要領全面実施に向けた教育課程の改善・編成に着手する。

### <研究課>

- 1 新学習指導要領の内容を踏まえ、児童生徒の「自立活動における指導内容設定表」を各学部の教員が協議しながら作成する。
- 2 作成した「自立活動における指導内容設定表」を踏まえ、児童生徒の目標達成に向けて授業実践や事例研究に取り組む。

②保護者や関係機関との連携を推進するとともに、学校HPや文書等を活用した情報発信を充実させることを通して、開かれた学校作りを行う。

### <総務課>

- 1 学校のHPを通して、学校での授業や学習活動、行事等の様子を配信し、保護者への情報提供を行う。
- 2 保護者からのアンケート結果や他校のHPを参考にして、学校HPの内容や更新頻度を充実させる。

③地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を発揮し、教育相談や教員研修の機会や内容を充実させ、地域における特別支援教育の貢献度を高める。

### <発達支援センター>

特別支援課と連携し、特別支援教育のセンター的機能である次の3部門の充実を図ることで、国立教員養成系大学の附属特別支援学校として、地域におけるセンター的役割を本校の特色として発揮する。

- 1 研修協力機能（研修会における講演やワークショップ等の講師）
- 2 相談・情報提供機能（訪問型及び来校型の保育・教育相談）
- 3 指導・支援機能（幼児児童生徒の指導に関する助言とフォローアップ）

### <特別支援課>

- 1 校内職員及び外部専門家を講師とした公開研修会で、センター的役割を發揮・充実する。
- 2 外部専門家を活用して、校内児童生徒への助言を受ける「コンサルテーション」や事例報告会を年間3回実施し、教員の専門性を高める。
- 3 県内外の研修会に参加したり、外部専門家の校外支援に同行したりすることで、巡回相談員の実践力と専門性を高める。

④児童生徒の支援方法の見直しや改善、危機管理マニュアルの見直しや教室等における施設・設備の保守・点検を推進し、学校危機管理及び安全・安心な教育環境を整備する。

### <指導課>

- 1 より科学的な知見をもとに、実際に対応できる防災訓練の実施計画を作成する。
- 2 訓練を通じて児童生徒の自他の生命を大切にする意識を高め、実際の場で主体的に行動できる態度を育てる。

# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	小学部			
今年度の重点目標①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、及び「個別の指導計画」の改善と作成を行い、児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導・支援を充実する。			
各部・各課の重点課題	1 学級の年間指導計画について、中間的な評価を行い、指導計画の見直しや修正を行う。 2 年間指導計画と併せて個別の指導計画の見直しを行い、進捗状況や児童の優先課題についての見直しを行う。			
重点課題に対する具体的な評価指標	1 前期に作成した指導計画等を夏季休業期間に中間的な評価を行い、見直しや修正を行う。後期の授業実践に向けて修正する。 2 冬期休業期間や年度末にも中間的な評価や総括的評価を行い、必要に応じて修正や検討を行う。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4～5月：児童や学級の実態把握を行い、各児童や学級の指導計画（各教科等の年間指導計画、個別の指導計画）の作成を行う。 6～9月：指導計画に基づきながら授業実践を行う。 8月：指導計画について中間的な評価を行い、後期（10月）からの指導計画に向けての計画の修正を検討する。 10～2月：修正した指導計画に沿って授業実践を行う。 12月：後期の指導計画について修正や評価を行い、学期末に向けての修正や改善案の検討を行う。 3月：総括的評価・改善を行い、次年度の指導計画（案）を検討する。			
実施状況	4～7月：児童や学級の実態把握を行い、各教科等の年間指導計画、個別の指導計画を作成した。指導計画に基づきながら授業実践を行った。 夏季休業期間：生活単元学習の指導計画について見直しや修正を行い、後期の指導計画に活用した。 冬季休業期間：1月以降の生活単元学習の指導計画を見直し、検討や修正を行った。 3月：総括的評価・改善を行う予定である。			
評価指標の達成度及び成果	1 夏季休業期間に生活単元学習を中心に見直しや修正を行い、後期の授業実践に活用した。 2 冬季休業期間に1月以降の単元テーマについて見直しと修正を行った。 2月の公開授業研究会に向けて、単元テーマや各クラスのねらいも検討して、授業実践に取り組むことができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	1 年度初めに作成した生活単元学習の年間計画の修正版の作成。 2 冬期休業期間後の単元テーマの見直しと検討。それを踏まえての公開授業研究会での指導案作成。			
次年度の課題	1 年度末に評価・改善した指導計画を、次年度も参考にし、活用する。 2 夏季休業や冬季休業期間に、生活単元学習を中心にしながら、各教科等の年間計画を関連付けながら見直しや修正に取り組んでいく。			

# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	中学部
今年度の重点目標①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、及び「個別の指導計画」の改善と作成を行い、児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導・支援を充実する。
各部・各課の重点課題	多様化した障がい特性や程度、また生徒の実態と生活年齢に応じて、保護者との連携の基に個の自立活動とクラス、学部等の集団における基礎的な環境整備と合理的配慮を充実させる。

重点課題に対する具体的な評価指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒全員に年間2回以上の障がい特性把握のためのアセスメントを行い、実態に応じてそれぞれの生徒に適切な合理的配慮や自立活動が行えるようにする。</li> <li>2 保護者アンケートとケース会議を年間2回実施する。</li> <li>3 年間3回以上の参観日と学級や学部懇談において学級及び学部についての説明を行い、中学部の保護者との信頼関係を形成し、将来に向けての環境整備と連携強化を図る。</li> <li>4 その他、連絡帳での情報交換、各学級の「学級通信」や学部主事の「学部だより」を各10回以上配付する等、学部重点目標の充実に取り組む。</li> </ol>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 4月、2月に保護者と個人懇談。教育的ニーズの聞き取り実施。アセスメントの実施。自立活動の時間における指導での児童生徒の学習成果及び教員の授業改善を、各教科の授業や各教科等を合わせた指導である作業学習の授業で、実践する。</li> <li>2 6月、2月に「将来の自立や地域での生活の様子（保護者が困難と感じていること）についてのアンケートを実施。ケース会議を実施。自立活動の時間における指導と教育活動全体における自立活動を関連付ける。その後、家庭生活や地域生活への般化へと関連付ける。</li> <li>3 学部懇談や学級懇談を年間を通じて、家庭訪問は必要に応じて実施する。</li> <li>4 「学級通信」「学部だより」の配付。連絡帳での情報交換。場合によっては、電話等での直接的な連絡を年間を通じて実施する。</li> </ol>

実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 4月に保護者と個人懇談。教育的ニーズの聞き取り実施。アセスメントでは、太田ステージ及びS-M 社会生活能力検査を実施した。</li> <li>2 6月、1月に「将来の自立や地域での生活の様子（保護者が困難と感じていること、できるようになってほしいこと）についてのアンケートを実施した。ケース会議は、生徒全員に2回ずつ実施した。</li> <li>3 学部懇談や学級懇談、参観授業を9月、12月に実施した。夏休み中に家庭訪問を実施した。2月に個人懇談を実施した。</li> <li>4 毎月「学級通信」を各学級配付、「学部だより」は年間12回配付した。毎日の連絡帳での情報交換を実施して、必要に応じて電話等による直接的な連絡も実施している。</li> </ol>								
評価指標の達成度及び成果	・実施計画通りに1から4までを100%実施した。2月の保護者アンケートでは、家庭や地域でできるようになったことがたくさん書かれていた。懇談等で保護者との連携が密になり、生徒の障がい特性や生活実態が的確に把握できた。また、個に応じた授業の改善や実施ができた。								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">A</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">B</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">C</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70～79%</td> <td style="text-align: center;">50～69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
A	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学部保護者アンケート、学校評価（保護者・教員）アンケート。</li> <li>・ 中学部会での協議、保護者との懇談等での情報。</li> <li>・ 学部便り及び各学級通信の配付数。</li> </ul>								
次年度の課題	・自立活動の時間における指導での児童生徒の学習成果及び教員の授業改善の成果を各教科や教科等を合わせた指導である作業学習等の授業で実践することで、般化を促すことを継続する。また、家庭生活や地域生活への般化へと関連付けたい。								



# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	高等部
今年度の重点目標①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、及び「個別の指導計画」の改善と作成を行い、児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導・支援を充実する。
各部・各課の重点課題	1 高等部の学習指導要領改訂を踏まえ、学校研究と関連性を持たせ関係機関との連携を図りながら、社会的・職業的自立を促す本校高等部の実情に即した授業づくりを行う。 2 生徒一人ひとりの障がい特性や発達段階を踏まえ、「社会参加と自立」に向けた高等部段階における妥当性の高い指導・支援の検討と充実を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	1 これまでの学校研究を基に、テーマを「作業学習」での授業研究を通して進めていき、新学習指導要領実施に向けて、授業作りを進める。 2 外部リソース(大学教授・福祉サービス事業所職員・鴨島病院専門家等)との連携を図るとともに、現在および将来の生活において妥当性の高い指導や支援の在り方について検討する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4月:保護者面談を基に生徒一人ひとりのアセスメントを実施する。 5月:ケース会議を実施する。令和元年度高等部研究計画を作成する。 6月～12月:①鴨島病院専門家との連携を図る。 ②2回の就業体験を実施し、生徒一人ひとりについての実習評価表に現場実習の評価を貰う。それを基にして教員間で課題の共有を図る。 ③研究授業および授業研究会の実施(12月)。 ④公開授業研究会(2月)にて公開授業を行う。 2月～3月:これまでの研究成果と課題について外部リソースからの助言をもとに高等部の教育の在り方について高等部教員で協議をする。

実施状況	1 学部研究会の中で検討し、共通理解することができた。移行支援計画、就業体験評価票を中心的課題(自立活動の目標)と関連させることができた。 2 鴨島病院外部専門家には各クラスより事例生徒を抽出して指導を頂いた(3事例)。福祉サービス事業所職員との連携は進路関係が主となり、就業体験の際に生徒の課題点等について高等部生全員(23名)について情報交換を実施した。また、スクールカウンセラーとも定期的に連携(保護者2名継続、生徒3名継続、教員3名継続)をすることができた。			
評価指標の達成度及び成果	1 生徒全員に対して保護者面談、ケース会議、アセスメントを実施し学校研究のテーマを基にして、新学習指導要領実施に向けての授業作りの推進ができた。 2 生徒それぞれのニーズにあわせ外部リソースを適切に活用することができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部教員での協議による。</li> <li>・外部リソースとの連携実数による。</li> <li>・学校評価に関する保護者アンケート結果による。</li> </ul>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領実施に向けての教育課程の検討。</li> <li>・外部リソースの活用。</li> <li>・HP学校を活用してICT教育の取り組みを発信する。</li> </ul>			



# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	教務課
今年度の重点目標①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、及び「個別の指導計画」の改善と作成を行い、児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導・支援を充実する。
教務課の重点課題	1 「個別の指導計画」の作成が円滑に進むような運営をする。 2 新学習指導要領全面実施に向けた教育課程の改善・編成に着手する。

重点課題に対する具体的な評価指標	1 「個別の指導計画」の作成に係る手続き・工程表を企画運営委員会・職員会議・学部会で周知するとともに、作成状況を共有する。また新転入者研修を行う。 2-1 学習指導要領改訂の趣旨踏まえた「尺度表」改訂への検討を教務課会等で年間4回程度行う。 2-2 学習評価及び指導要録作成にあたっての配慮事項を周知し、適切に実施できるよう努める。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4～5月：個別の指導計画作成に向けた必要書類の準備や日程の周知 6～7月：「尺度表」改訂の手順について検討、学習評価及び指導要録作成にあたっての配慮事項を周知 8～9月：「尺度表」改訂への協議、学習評価及び指導要録作成にあたっての協議 10～11月：協議に基づく「尺度表」改訂案の作成 2～3月：「尺度表」改訂案の周知 指導要録の改訂と作成

実施状況	1 新書式での「個別の指導計画」作成が無事に完了した。工程を職員会議等で周知するとともに、前期作成時に出された疑問点については教務課員で相談、情報提供をし、作成に支障を来すことなく完了した。 2-1 「尺度表」改訂について現在3回 教務課会での健闘を行っている。新学習指導要領に示された「内容表」の様式を本校「尺度表」の形式に変更することを教育課程検討委員会です承され、作業中である。 2-2 来年度の小学部新学習指導要領の全面実施に伴い、指導要録については全学部とも新書式に変更することを教育課程検討委員会に提案し、決定した。今年度末に変更作業を行うことになり予定である。
------	---

評価指標の達成度及び成果	1 新書式での「個別の指導計画」作成が円滑に行われ、保護者及び教員の高い満足度を得た。本課による研修や情報提供が適切であったと考える。 2-1 「尺度表」改訂の検討を行い、「尺度表」に代わり「学習指導要領総則・内容表」を学習の段階評価に利用し、記録できるよう様式を整えた。教務課会での検討は、4回行った。 2-2 文科省「新学習指導要領・評価基準」を全教員に回覧、また各学部で写しを配付し周知した。指導要録については、新書式への変更を教育課程検討委員会に提案し、変更できた。3月上旬に周知、作成する。
--------------	--

総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評価根拠	1 学校評価保護者アンケート及び学校評価教員アンケート 2-1 成果物である「内容表」及び会議録 2-2 回覧資料及び会議録
------	--

次年度の課題	新学習指導要領全面実施に向けた取り組み ・新様式での「個別の指導計画」に関すること ・「尺度表」から「内容表」への移行に関すること ・新様式での指導要録作成に関すること
--------	---



# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	研究課			
今年度の重点目標①	学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の編成、及び「個別の指導計画」の改善と作成を行い、児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導・支援を充実する。			
各部・各課の重点課題	1 新学習指導要領の内容を踏まえ、児童生徒の「自立活動における指導内容設定表」を各学部の教員が協議しながら作成する。 2 作成した「自立活動における指導内容設定表」を踏まえ、児童生徒の目標達成に向けて授業実践や事例研究に取り組む。			
重点課題に対する具体的な評価指標	1-1 自立活動について、理解を深めるための研修会を3回以上実施する。 1-2 各学年、クラス1名ずつ対象児童生徒を決定し、自立活動における指導内容設定表を作成する。各学部の教員で協議し、教員間の共通理解の下で作成する。 2 自立活動の視点を踏まえた授業について、全体授業研究会を各学部1回以上実施して協議を行い、児童生徒に応じた目標や支援方法等を評価し、授業改善を図る。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	・全体研究会、企画運営委員会、研究運営会議等を通して研究の進め方等について協議し、共通理解を図っていく。 4～5月：新学習指導要領や自立活動について共通した認識を持つための研修会を実施する。 6～7月：各学部毎に「自立活動における指導内容設定表」を作成し、作成した児童生徒について学部研究会を実施し、実態や目標の共通理解を行う。 7～8月：「自立活動における指導内容設定表」の目標達成に向けて、各教科等の授業の中で指導場面を検討する。 9～1月：検討した内容を踏まえて授業実践や事例研究に取り組む。11～12月には各学部毎に全体授業研究会を実施する。 2月：公開授業研究会を開催し、今年度の成果や課題等の発表を行う。 3月：今年度の成果と課題をまとめ、次年度の研究目的や方法を提示する。			
実施状況	1-1 全体研究会を年間6回実施した。自立活動の意義や研究の方向性について共通理解を行うとともに、学部研究の進捗状況についての報告を行い、研究の進捗状況の確認を行うことができた。 1-2 6～7月にかけて、各学部毎に対象児童生徒クラスや学年で1名ずつ決めて、自立活動における指導内容設定表を作成した。作成したものを基に、学部内で実態や指導内容等を共通理解するための協議を実施した。 2 全体授業研究会を各学部1回ずつ、計3回実施した。研究授業を実施し、その授業を基に、児童生徒に応じた目標や支援方法等についての検討を行った。			
評価指標の達成度及び成果	1-1 自立活動への理解が深まり、児童生徒の中心的課題の改善・克服を目指した授業を実施することができた。 1-2 対象児童生徒の自立活動における指導内容設定表を作成し、学部毎に協議することができた。書式の改善についての意見を各学部より出してもらうことができ、書式の改善に向けて準備を進めているところである。 2 研究授業や授業研究会を通して、自立活動の視点をふまえた授業のあり方について協議することができ、授業改善に繋げることができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	1-1 全体研究会資料、公開授業研究会開催資料 1-2 自立活動における指導内容設定表、研究課会記録、学部研究会記録 2 各学部研究授業指導案、全体授業研究会記録			
次年度の課題	・「自立活動における指導内容設定表」の書式改善、運用に向けた取組 ・自立活動の視点を踏まえた研究授業、授業研究会の実施 ・3カ年の研究成果を研究紀要にまとめる。			

# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	総務課			
今年度の重点目標②	保護者や関係機関との連携を推進するとともに、学校 HP や文書等を活用した情報発信を充実させることを通して、開かれた学校作りを行う。			
各部・各課の重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の HP を通して、学校での授業や学習活動、行事等の様子を配信し、保護者への情報提供を行う。</li> <li>・保護者からのアンケート結果や他校の HP を参考にして、学校 HP の内容や更新頻度を充実させる。</li> </ul>			
重点課題に対する具体的な評価指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年度のアンケート結果を踏まえ、HP の内容を検討・改善し、学校での授業や学習活動、行事等の様子を配信する。</li> <li>2 課会において他校の HP を閲覧し、本校 HP と比較・検討して改善するための話し合いを持つ。(6～7月上旬までに3回)</li> <li>3 昨年度のアンケートを基に、質問項目を課員で検討・改善し、今年度実施する。その結果を踏まえて、保護者のニーズに応える改善(情報の追加・更新頻度など)を行い、満足度を計る。(アンケートにおける肯定的評価70%)</li> </ol>			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<p>4～5月：昨年度のアンケート結果を踏まえ、各学部や各学級の授業についての記事・写真を学校 HP にて発信する。</p> <p>6月：課会にて、附属学校園の HP や県内の特別支援学校の HP を閲覧して本校 HP の比較・検討の参考とし、本校 HP の改善について話し合う。</p> <p>7月：昨年度のアンケートを基に課員で協議の上、保護者の満足度の正確な割合や学校 HP に対するニーズを把握しやすいアンケート内容に改善して実施する。</p> <p>8～3月：保護者アンケートの結果を踏まえ、学校 HP の内容や更新頻度を検討すると同時に、タイムリーに写真をアップできる方法を考える。各学部の総務課員を中心に HP 配信用の素材を集め、配信する。</p> <p>3月：年度末の保護者へのアンケートにより評価を行う。</p>			
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者のニーズとして1番高かった、「各行事や授業の様子、学習風景」について、授業の様子や学習風景を昨年度より多めに配信した。</li> <li>2 課会にて他校HPを課員それぞれが閲覧して本校HPと比較し、本校HPの内容や更新の仕方について協議した。</li> <li>3 学校HPやICT教育に関するアンケートについて、昨年度の様式を基に、質問項目を課員で検討・改善した。9月に教員、10月に保護者に向けてアンケートを実施した。その結果を課会にて共通理解し、2の協議内容とも合わせて学校HPの改善案を立案した。</li> </ol> <p>※当初の計画では3月に保護者の満足度をアンケートで図る予定であったが、1回目のアンケートが7月実施予定から10月にずれて実施となった。このため、3月予定の2回目の実施が1回目との期間が短く保護者の負担になることが予想されたため、学校評価アンケートの評価項目より、満足度を把握することとした。</p>			
評価指標の達成度及び成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校での授業や学習活動等の様子を配信することができた。(学校 HP 参照)</li> <li>2 課会において本校 HP と比較して改善するための話し合いを3回持つことができた。</li> <li>3 学校評価アンケートから、HP を含む、開かれた学校作りの保護者満足度は96%であった。</li> </ol>			
総合評価 (記号を○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	保護者対象の学校評価アンケートの満足度結果や、教員アンケート、及び課会記録による。			
次年度の課題	<p>学校ホームページの内容及び更新の方法を次のように取り組みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の作品ページの項目を追加する。</li> <li>・授業や日常生活等の記事を各学部が偏りなく発信できるよう、総務課で更新作業を分担して取り組む。</li> <li>・更新頻度を上げるため、また、保護者が更新を知る目安として、おおよその更新日を決める。</li> </ul>			

# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	発達支援センター
今年度の重点目標③	地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を発揮し、教育相談や教員研修の機会や内容を充実させ、地域における特別支援教育の貢献度を高める。
発達支援センターの重点課題	<p>特別支援課と連携し、特別支援教育のセンター的機能である次の3部門の充実を図ることで、国立教員養成系大学の附属特別支援学校として、地域におけるセンター的役割を本校の特色として発揮する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 研修協力機能（研修会における講演やワークショップ等の講師）</li> <li>2 相談・情報提供機能（訪問型及び来校型の保育・教育相談）</li> <li>3 指導・支援機能（幼児・児童への直接指導とフォローアップ）</li> </ol>

重点課題に対する具体的な評価指標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研修協力機能：講演や研修会講師を年間10回以上実施する。</li> <li>2 相談・情報提供機能：鳴門教育大学第3期中期目標に沿って相談・支援等150件、うち30名の教員等に複数回の相談を実施する。</li> <li>3 幼児・児童への直接指導とフォローアップを3回以上実施する。</li> </ol>
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1・2 各校園及び徳島県立総合教育センター特別支援・相談課、徳島市教育研究所、徳島市子ども施設課等との連携を密にし、指導の必要性が高い事例について情報交換、相談支援を行う。</li> <li>3 対象児の指導を行いながら、対人行動や社会的コミュニケーション、言語理解等を促す指導内容や教材開発及び指導効果の検証を行う。</li> </ol>

実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研修会講師として10回（幼稚園1，中学校1，保育・教育連絡会等4，地教委2，保育行政1，関係機関1）の研修協力を行った。</li> <li>2 相談支援等を172回（予定）実施した。うち22の支援先、50名以上の教員等に複数回の相談を行った。（支援先の数は保育所3，幼稚園5，小学校10，中学校1，高校2，保育・教育行政1）</li> <li>3 幼児児童生徒への直接指導を相談活動のうち5回行った。</li> </ol>								
評価指標の達成度及び成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 評価指標を達成した。保育所や学校園のみならず、地教委や関係機関等の実施効果の高い事案を担当することができた。</li> <li>2 支援先から複数回や定期的な依頼があり、評価指標以上の相談や情報提供ができた。高等学校への相談の増加や昨年度は実績のなかった中学校への支援を行うことができた。</li> <li>3 幼児児童生徒への直接指導では、発達支援センターが所有する教材や書籍及び本校の指導事例をもとに指導や情報提供に努めた。</li> </ol>								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">○A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>50～69%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	○A	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
○A	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	徳島市の中学校区特別支援教育連絡会講師，教育支援委員会委員，徳島市子ども施設課の障害児保育検討委員会委員等を委嘱された。また，徳島県立総合教育センター特別支援・相談課からの相談・検査依頼など，本校が位置する地域における特別支援教育のネットワーク構築に貢献した。								
次年度の課題	本年度は，発達支援センター長他，教育相談担当2名の陣容であったが，相談担当は担任兼務であり，派遣については学部の支援体制が重要である。担当者間で相談日を設定するなどの工夫を行ったが，発達支援センターの役割や業務内容について全教員の共通理解が必要である。								



# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	特別支援課			
今年度の重点目標③	地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を発揮し、教育相談や教員研修の機会や内容を充実させ、地域における特別支援教育の貢献度を高める。			
各部・各課の重点課題	1 校内職員及び外部専門家を講師とした公開研修会で、センター的役割を發揮・充実させる。 2 外部専門家を活用して、校内児童生徒への助言を受ける「コンサルテーション」や事例報告会を年間3回実施し、教員の専門性を高める。 3 県内外の研修会に参加したり、発達支援センター長とともに外部専門家の校外支援に同行したりすることで、巡回相談員の実践力と専門性を高める。			
重点課題に対する具体的な評価指標	1 長期休業中に校内教員や外部専門家を講師とした公開研修会を5回実施する。 2 医療機関の専門家（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）と連携し、児童生徒へ助言を受ける「コンサルテーション」を年9回以上実施し、事例の成果報告会を年3回実施する。 3 特別支援教育巡回相談員が県教委主催の相談員研修会に年間2回以上の参加する。（県外の研修機関に相談員を派遣する。）また、外部専門家を活用した外部支援に、可能な限り参加する。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	1 昨年度のアンケートや校内教職員のニーズを参考に、徳島市の学校園や保育所及び県立特別支援学校等の職員を対象にした公開研修会を実施する。（夏期休業中） 2 各学部の児童生徒の実態や特性、及び外部専門家へのニーズを把握するとともに、その活用のための研修会を実施し、「コンサルテーション」を充実させる。コンサルテーションの成果報告会は1月に実施する。（5月～1月） 3 県教委主催の研修会に参加して他の特別支援学校の相談員と連携を図ったり、県外の研修機関での成果を報告して情報発信能力を高めたりする。相談活動は、担当曜日を設定して、徳島市内外の認定こども園・保育所等、幼稚園、小中学校等の教育相談依頼に応じる。（通年）			
実施状況	1 長期休業中に校内教員や外部専門家を講師とした公開研修会を5回実施した。 2 医療機関の専門家（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）と連携し、指導や授業の改善に助言を受ける事業を全19回実施した。内訳は、校内実施10回（事例成果報告会3回を含む）、校外実施9回である。 3 特別支援教育巡回相談員が県教委主催の特別支援教育巡回相談員研修会に参加した。また、県外の検査法等の研修会にも相談員を派遣できた。			
評価指標の達成度及び成果	・夏季公開研修を5回実施し、校外の参加者が延107人あった。また、参加者アンケートの結果では、「とても良かった」「良かった」の回答が合わせて95%以上であった。 ・外部専門家による上記事業を校内で10回実施し、学部会や成果報告会において成果の共有ができた。事業終了後に実施したアンケートでは、「活用ができた」の回答が95%であった。 ・幼稚園・保育所、小、中、高等学校等の教育相談を年間125件以上実施できた。また、その内容について教員に報告する「特別支援教育課便り」を年間2回発行できた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	・評価指標として目標に掲げた研修会の実施や相談活動において、特別支援教育のセンター的機能を発揮することができた。（また、訪問相談においては、訪問相談先へのアンケートを実施し、「非常によい」の評価を得ることができている。 ・外部専門家との連携においても、実践と協議を重ねることができた。			
次年度の課題	・地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を高めるため、外部講師を招いた公開研修会や校内教員による実践報告会などを積極的に実施したい。 ・外部専門家を活用した事業においては、活用方法を更に工夫し、児童生徒の成長や教員の専門性向上を目指したい。			

# 令和元年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	指導課			
今年度の重点目標④	児童生徒の支援方法の見直しや改善，危機管理マニュアルの見直しや教室等における施設・設備の保守・点検を推進し，学校危機管理及び安全・安心な教育環境を設備する。			
各部・各課の重点課題	1 より科学的な知見をもとに，実際に対応できる防災訓練の実施計画を作成する。 2 訓練を通じて児童生徒の自他の生命を大切にする意識を高め，実際の場で主体的に行動できる態度を育てる。			
重点課題に対する具体的な評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画にそって，定期的に訓練を実施する。</li> <li>・各訓練において，PDCAの考え方をいかし，昨年度のふりかえりをもとに，実施計画を改善したりステップアップしたりする。</li> <li>・訓練後，児童生徒にインタビューを行い，何を学んだか，実際の場でどのようにすればよいかを聞き取り，言語化して写真と共に校内に掲示する。</li> </ul>			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各訓練の年間計画を立て，役割分担する。</li> <li>・スクールバス・誘拐・不審者・火災・地震の各訓練を実施計画にそって行い，教職員に事後アンケートと児童生徒にインタビューを行う。</li> <li>・南海トラフ地震について，専門機関に依頼して，より正確な情報や知見を得，まとめて周知する。</li> </ul>			
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各訓練の年間計画を立て，役割分担できた。</li> <li>・訓練後，各学部の児童生徒へ教科の学習グループやクラスでインタビューを行うことができた。スクールバス・誘拐・不審者・火災・地震の各訓練を実施計画にそって行い，教職員に事後アンケートを行うことができた。</li> <li>・南海トラフ地震について，専門機関に依頼して，より正確な情報や知見を得，まとめて周知することができた。</li> </ul>			
評価指標の達成度及び成果	1 年間計画にそって，定期的に訓練を実施し，各訓練において，PDCAの考え方を活かし，昨年度の振り返りをもとに，実施計画を改善したりステップアップしたりすることができた。 2 訓練後，教科の学習グループやクラスで，児童生徒に「何を学んだか」「実際の場でどのようにすればよいか」を聞き取り，確認することができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	(A)	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各訓練において，昨年度のふりかえりをもとに，実施計画を改善し，より実際の場を想定した訓練を行うことができた。</li> <li>・南海トラフについては，課員から自発的に声上がり，夏休みに，当初の計画にはない「まなぼうさい教室」を開催し，教職員が任意で多く参加し，専門機関から具体的に学ぶことができた。また校内の啓発につながった。</li> </ul>			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に訓練の目的や内容，実施の様子等を今まで以上に詳しく伝え，防災学習の成果を保護者と共有し，充実を目指す。</li> <li>・課員の分掌業務を見直し，各学部や他の校務課とも連携し，児童生徒の活動をさらに充実させる。</li> </ul>			